

生産者自ら「こだわり」発信



農家は作るだけでなく、消費者の目に触れる表舞台に立たなければならぬ。日
本有数の農業地帯、愛知県豊橋市でかんきつを栽培する河合浩樹(49)は、農家の情報発信の重要性を訴える。河合は消費者の目線に立ち、安全・安心な生産を行い、積極

愛知県豊橋市 河合浩樹さん(49)



天敵昆虫を活用し、農薬を使わずレモンを栽培する河合浩樹さん(愛知県豊橋市)

的に自己主張して市場を切り開くエネルギーな農家を「農人(のうじん)」と位置付け、認定する制度「豊橋百億円」を立ち上げた。

(竹内啓太)

活動は、サポーターと呼ぶ支援してくれる消費者に対し、頻繁に自らの情報を発信していく。ホームページ(H

河合と共に百農人を立ち上げたHPなどのデザインを手掛ける制作会社「都テサイ

農人の構想は河合の地域の農業に対する危機感から始まった。年を追うにつれ、農家は確実に減っている。5年、10年先を考えると農業は衰退の一途をたただけだ。河合はこれから生き残るには何が必要かと考え、情報発信をしながら相互の信頼関係を築くことと結論付け

を受け、規則に違反すると罰金もある。
「消費者を満足させなければ信頼は得られない。農人が作ったものなら買いたい、買いたいと思ってもらえない支えたい」と考え、あえてハードルを高くしている。
昨年10月から参加する養鶏業の高橋賢次(36)は「こだわりを知ってもらうことで、再生産できる価格への理解につながっている。手間はかかるが、自分の意見を言える場だ」と言う。

消費者巻き込み振興

百農人の「百」は1品目1人以上を認定し、全ての品目を網羅することを狙っている。

河合は無農薬のレモン栽培に成功したが、売れず苦しい経験がある。テレビや新聞など自分が表舞台に立つことで、知名度アップと販路の拡大に成功した。

情報を受け取るサポーターにも求めるものがある。誰でも参加できるシステムではなく、事務局の選考を経る。一方、通知表にはサポーターからの評価も盛り込まれる。

地域の概況

豊橋市は全国でも有数の農業生産額を誇る農業地帯。種類も多彩で、栽培品目は100種類近くあ

通知表で評価

農人になるには、事務局が定める100を超す項目をクリアしなければならぬ。環境や安全・安心に配慮した栽培や表舞台に立つ覚悟があることなど、消費者目線を重視した取り組みが求められる。農家とサポーター、農家の情報発信やイベントへの参加、月に1度の農人の会議への出席なども要求される。気込む。
(本文敬称略)